

使用方法(軸方向の円周振れ測定)

①「偏心度測定①～③」に沿ってワークをローラー上にセットする。

②前後のワークストッパーでワークの位置を固定する。(ROG-581Sのみ)

ROG-581Sは構造上、メインローラーを回転させるとワークが前後に多少移動します。ワークの移動を止めるために、ワークの前後をワークストッパーで押さええます。

・前ストッパー前後ねじと、前ストッパー角度ねじをゆるめ、ワークストッパー(前)の位置をワーク前方を押さえるように調整して、ねじを締めてください。(図8)

・後ストッパー前後ねじをゆるめ、ワークストッパー(後)の位置をワーク後方を押さえるように調整して、ねじを締めてください。(図8)

※後ストッパー高さねじは、下部のワッシャの枚数を変更することでワークストッパー(後)の高さを変えられます。必要に応じて、ワッシャを1枚または2枚はさんでご使用ください。

③測定子をワーク端面に当て、ハンドルを回して測定してください。

測定子の測定子をワーク端面に直角に当て、回転するワーク端面の振れを読み取ってください。(図9)

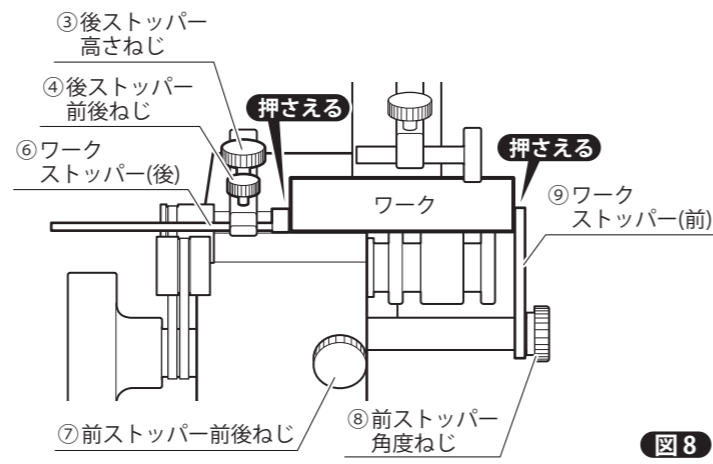


図8

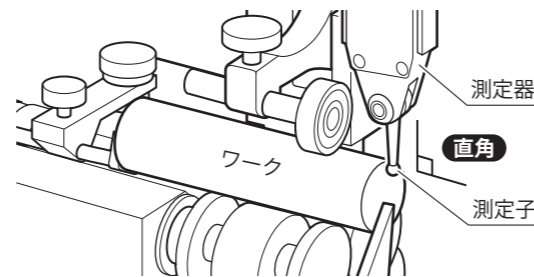


図9

キャリアへの注油 (ROG-581Sのみ)

キャリアは滑らかな動きを保つため、定期的に注油が必要です。

お手持ちのグリースガンなどを使用して、キャリアのグリスニップルへ、潤滑油を補充してください。(図10)

●適用潤滑油：ISO VG32～150

●推奨注油頻度：3ヶ月に1度

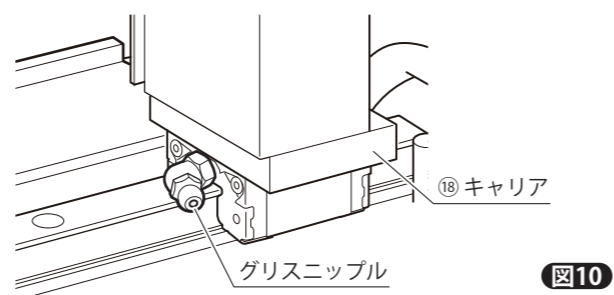


図10

測定可能ワーク条件

測定するワークは、下記の条件に沿って準備してください。下記の条件を守らない場合、ワークまたはローラーの変形・破損に繋がります。

①下記仕様表に記載の『測定可能ワーク条件』に沿ったサイズ・形状であること

②回転の基準とする部分がローラーで十分に挟める長さであること

③変形しやすい素材でないこと

※非鉄(アルミ)やプラスチックなどの軟材は、外径と長さによっては、たわみが生じて測定誤差が発生する場合があります。

仕様

品番	ローラータイプ	本体質量	測定可能ワーク条件
ROG-581S	スリットローラー	13kg	外径：φ4～30mm 長さ：5～300mm 形状：円筒状
ROG-307S	フラットローラー	13kg	外径：φ10～110mm 長さ：5～80mm 形状：円筒状

※ワーク先端部がメインローラー端面から離れると振れが大きくなり、測定誤差の原因となります。

※非鉄(アルミ)やプラスチックなどの軟材は、外径と長さによっては、たわみが生じて測定誤差が出る可能性があります。

使用後のお手入れ・保管方法

●メインローラー・トップローラー・キャリア周辺の汚れを拭き取り、防錆処理を行う。

ローラー部とキャリア周辺は錆びやすくなっています。特にローラーは錆びた場合、精度に影響がありますので、防錆処理をしっかりと行ってください。

●付属の収納ケースに入れ、乾燥した冷暗所に保管する。直射日光や湿気は避け、管理者以外が触れない状態で保管してください。

共通仕様

●精度：4μm以内
※4μm=φ2.0mmワーク測定時(当社測定値)

●使用温度：0～40℃

●保管温度：-10～50℃

●収納ケース付

製造元 **SC** 新潟精機株式会社

〒955-0055 新潟県三条市塚野目5丁目3番14号

☎(0256)33-5502(代) FAX(0256)33-5528

URL <http://www.niigataseiki.co.jp>

I415-K

2003

偏心度測定用 精密治具

偏心度測定システム

この度は「偏心度測定システム」をお買い上げ頂きありがとうございます。この商品は、お手持ちのインジケータなどの測定器を取り付け、ワークの偏心度(ワークを回転させた時の外径・内径の振れ)や、軸方向の円周振れ(直角度)を測定するための精密測定治具です。

●正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に本取扱説明書を必ず読み、記載の手順に従ってご使用ください。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる場所に、大切に保管してください。

●第三者に譲渡・貸与される場合も、この説明書を必ず添付してください。

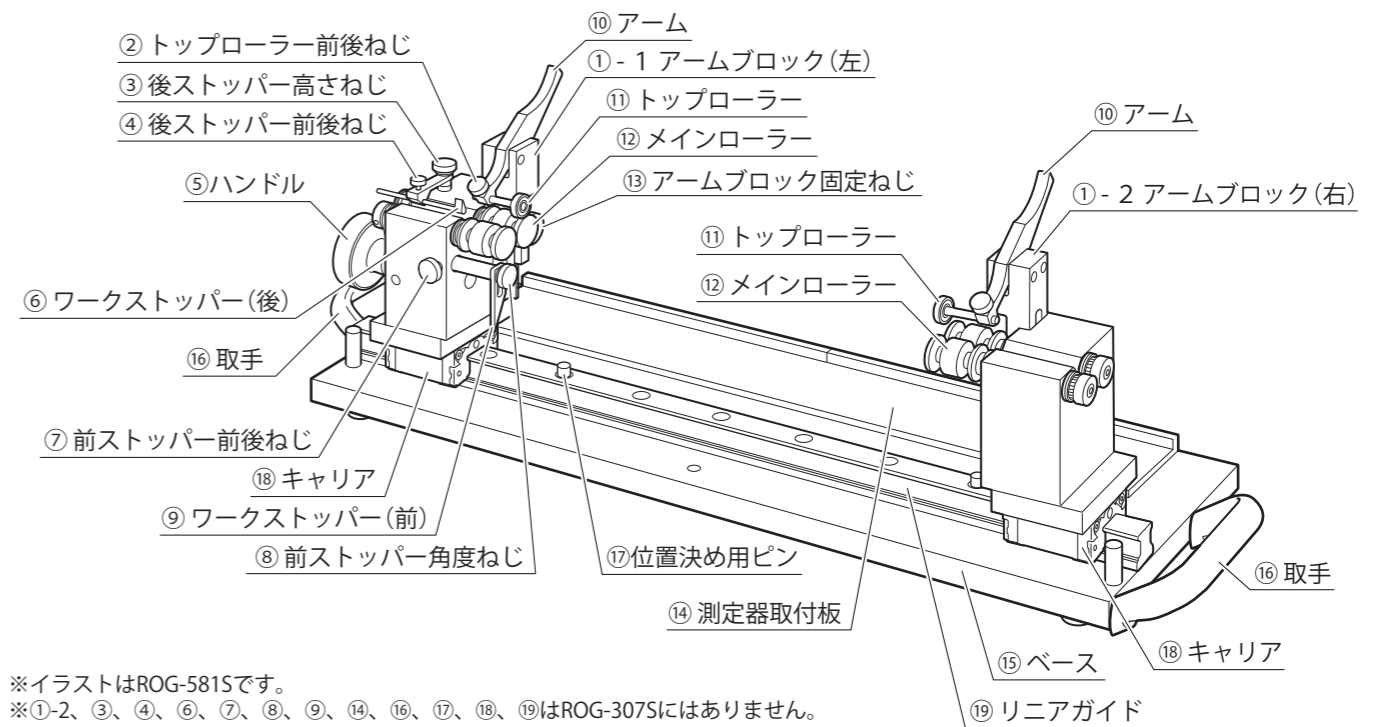
●当商品に関するお問い合わせは、お買い求めの販売店もしくは当社にご連絡ください。

品番
ROG-581S
ROG-307S

安全上のお知らせ

この説明書には拡大損害が予想される事項には△、禁止事項には⊘、必ずお守り頂きたい強制事項には◎マークを付けて表示しています。

■各部の名称と機能



※イラストはROG-581Sです。

※①-2、③、④、⑥、⑦、⑧、⑨、⑭、⑯、⑰、⑱はROG-307Sにはありません。

①アームブロック …… アームとトップローラーを支えています。

②トップローラー前後ねじ …… トップローラーの前後の位置を固定します。

③後ストッパー高さねじ …… ワークストッパー(後)の高さを、ワッシャの枚数で調整します。

④後ストッパー前後ねじ …… ワークストッパー(後)の前後の位置を固定します。

⑤ハンドル …… メインローラーを回転させるハンドルです。

⑥ワークストッパー(後) …… 軸方向の円周振れ(直角度)を測定する際に、ワークが前後に移動しないよう押さええます。

⑦前ストッパー前後ねじ …… ワークストッパー(前)の前後の位置を固定します。

⑧前ストッパー角度ねじ …… ワークストッパー(前)の角度を固定します。

⑨ワークストッパー(前) …… 軸方向の円周振れ(直角度)を測定する際に、ワークが前後に移動しないよう押さええます。

⑩アーム …… トップローラーを上下に動かし、ワークをはさみます。

⑪トップローラー …… ワークをはさむ上のローラーです。

⑫メインローラー …… ワークをはさむ下のローラーです。

⑬アームブロック固定ねじ …… アームブロックの上下を固定するねじです。

⑭測定器取付板 …… この面にお手持ちのマグネットベースを取り付け測定可能です。(ROG-581S)

⑮ベース …… スチール製のベースです。お手持ちのマグネットベースを取り付けて測定可能です。(ROG-307S)

⑯リニアガイド …… キャリアをスライドさせるガイドレールです。

⑰位置決め用ピン …… リニアガイド上の穴に挿し、キャリアの位置決め用に使います。

⑱キャリア …… ワークの長さに合わせてスライドさせます。

安全上のご注意

必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを下記のように説明しています。

■表示内容を無視して、誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を次の表示で区分しています。

⚠ **注意** 『傷害を負う、または物的損害が発生するおそれがある内容』です。

■お守りいただく内容の種類を次の図記号で区分しています。

⊘ してはいけない内容 『禁止事項』です。

⊙ 必ず実行していただく内容 『強制事項』です。

⚠ 注意

⊙ **取扱説明書をよく読み、指示に従う。**
・取扱説明書に記載された内容以外での使用は、事故の原因となります。

⊙ **偏心度・軸方向の円周振れの精密測定作業にのみ使用する。**
・指定用途以外へのご使用は、製品の破損や磨耗、予測できない事故の原因となります。

⊙ **下記の条件を満たす環境で使用する。**
●雨や水などがかからない、乾燥した場所
●直射日光の当たらない場所
●振動がない安定した場所
●表面にガタツキのない平滑な場所
●子どもや、使用者以外が近付かない場所
・上記に反する場所での使用は、精度不良や製品の破損、事故やけがの原因となります。

⊙ **本器は大切に取り扱い。**
・落下などの衝撃を与えたり、重量物を載せたりしないでください。精度不良や製品の破損の原因となります。

⊙ **測定可能ワーク条件を守る。**
・守らない場合、ワークまたはローラーの変形・破損に繋がります。

⊘ **分解や改造を行わない。**
・精度不良や製品の破損の原因となります。
・メインローラーなどの部品をお客様の方で取り外された場合は、精度保証対象外となりますので、ご注意ください。

⊙ **使用後は防錆処理を行い、直射日光の当たらない乾燥した場所で保管する。**
・メインローラーやトップローラー、キャリア周辺は錆びやすくなっています。使用後は必ず防錆処理を行ってください。

使用方法(偏心度測定)

※メインローラー、トップローラー部分は精度を出すため、大変錆びやすくなっています。必ず手袋を着用して、作業を行ってください。

① **本体を設置する。**
本体を設置します。安定した測定結果を得るために、ガタツキの無い平滑な、安定した場所へ設置してください。

② **ワークを左右のメインローラー上にセットする。**
ROG-581Sのセット方法 ※ROG-307Sは次ページ
2つのメインローラーの間にワークを置きます。(左右)アームを押し下げ、トップローラーを持ち上げた状態でワークを置いてください。(図1)

測定するワークは、本取扱説明書裏面『測定可能ワーク条件』に沿って準備してください。

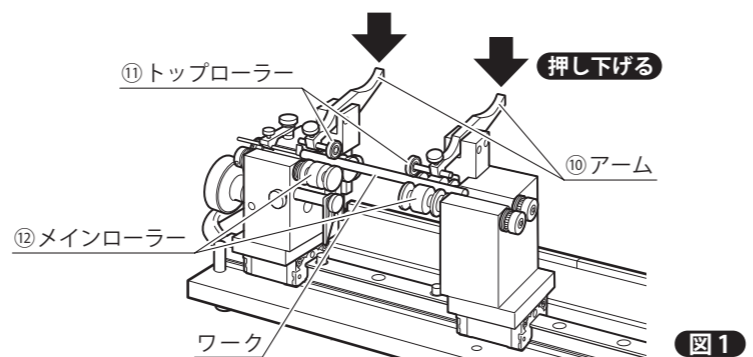
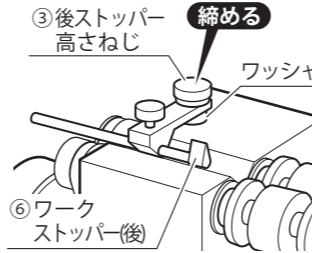


図1

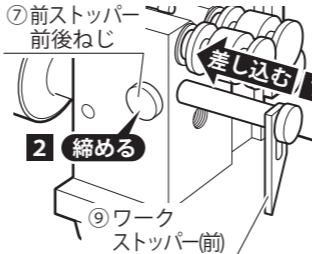
使用前の組み付け

ご使用前に各種部品を組み付けてください。

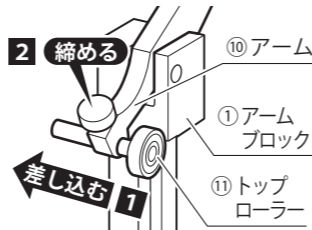
① **ワークストッパー(後)を取り付ける。(ROG-581Sのみ)**
後ストッパー高さねじを本体の取付穴に差し込み、固定します。ワッシャ(厚)の枚数で、ワークストッパー(後)の高さを調整してください。



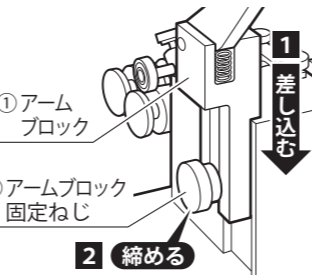
② **ワークストッパー(前)を取り付ける。(ROG-581Sのみ)**
ワークストッパー(前)を本体の取付穴に差し込み、前ストッパー前後ねじで固定します。ワークストッパーがローラーに触れないよう注意してください。



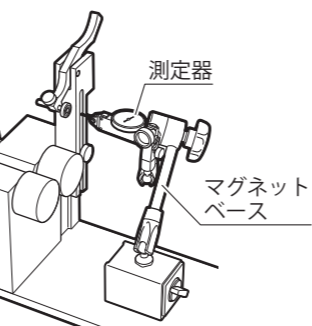
③ **トップローラーを取り付ける。**
トップローラーをアームの取付穴に差し込み、トップローラー前後ねじを締めて固定します。



④ **アームブロックを取り付ける。**
・アームブロックを本体の溝に差し込み、アームブロック固定ねじを締めて固定します。
・アームブロックは左右(2種類)あります。取り付け方向を間違えないようにしてください。(ROG-581Sのみ)



⑤ **測定器を取り付ける。**
マグネットベースなどの保持具で測定器を保持してください。



ROG-581Sのセット方法(つづき)

※短いワークであっても、できるだけワークは左右のメインローラーで受けてください。片側のローラーのみで受けた場合、測定点がローラーから離れるほど精度が低下します。(図2)

※ローラーがスリットタイプで、ワークのフランジ(段差)を逃がすことができます。ローラーの溝にワークのフランジを合わせてセットしてください。

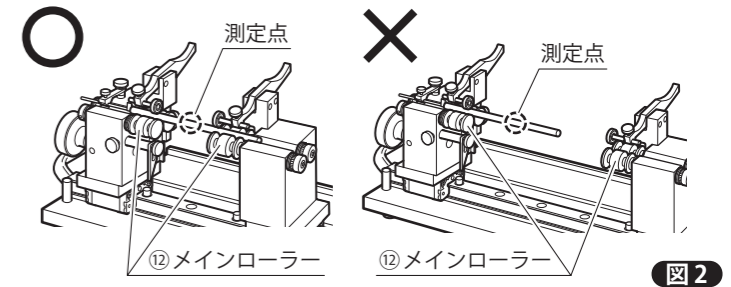


図2

ROG-307Sのセット方法 ※ROG-581Sは前ページ

2つのメインローラーの間にワークを置きます。アームを押し下げ、トップローラーを持ち上げた状態でワークを置いてください。(図3)

※本器はローラー上が最も精度が高くなっています。測定点があまりローラーから離れた位置にならないよう、ワークの位置を調整してください。

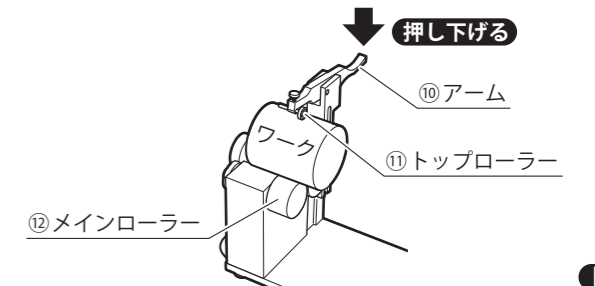


図3

③ **トップローラーをセットする。**
アームブロック固定ねじをゆるめ、アームブロックの高さを調整します。トップローラーとワークの接点が、ワークの中心線に来よう上下位置を調整し、アームブロック固定ねじを締めてください。(図4)

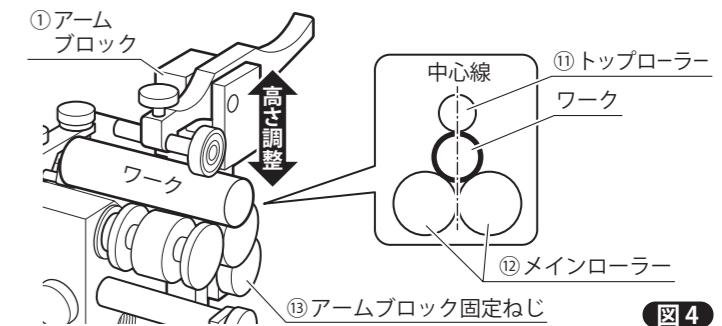


図4

④ **トップローラーの前後位置を調整する。**
トップローラー前後ねじをゆるめ、トップローラーの位置を調整します。ワークを安定して挟める位置で、ねじを締めて固定してください。(図5)

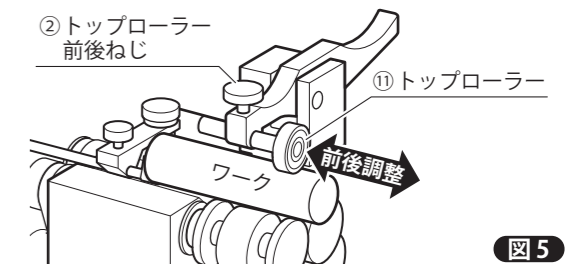


図5

⑤ **測定器の測定子をワークに当てる。**
※インジケータの場合、測定子はワークに対し、測定方向が直角になるように当てます。(図6)

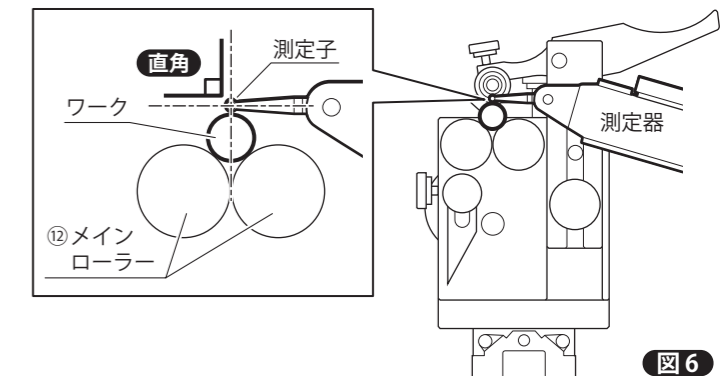


図6

※ダイヤルゲージの場合、測定子がワークに直角に接する(測定方向が直角になる)ように当てます。(図7)

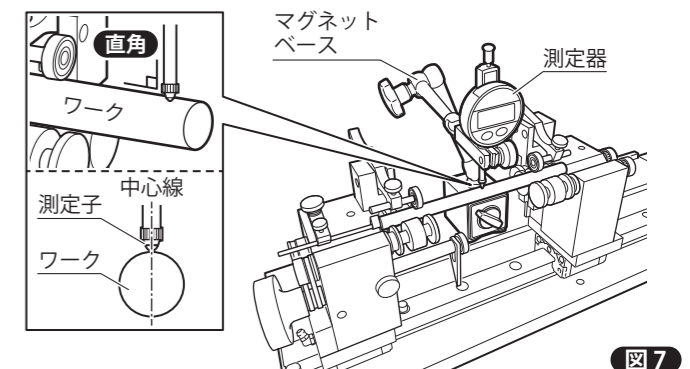


図7

⑥ **ハンドルを回して測定する。**
ハンドルを回すと、メインローラーが回転し、ワークが回転します。このときのワークの振れを、測定器で読み取ってください。